

2019年度 医学部海外短期留学報告会を開催しました

11月7日、大塚講堂（蔵本キャンパス）にて、「2019年度 医学部海外短期留学報告会」を開催しました。

本報告会は、海外の学術交流協定校等へ留学した医学部の学生が研究成果を発表するとともに、海外で自ら体験したことを教員や学生に報告することにより、医学部のグローバル化に寄与し、ひいては本学の国際化を促進させることを目的として、2011年度から毎年開催しています。

報告会は、赤池雅史医学部長による英語での開会の挨拶で始まり、発表者は、テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター（米国）、ハノーバー医科大学（ドイツ）、ソウル国立大学（韓国）スウェディッシュ病院（米国）、セントポール病院（フィリピン）、サンパウロ大学（ブラジル）の順で、英語と日本語で体験発表を行いました。

発表者は、留学先での研究の成果、留学で得たことや見つかった課題、そして、英語によるコミュニケーション力を身に着けることの重要性に加えて、特に海外では、自らが課題を見つけ積極的に行動することがいかに大切であるかを報告しました。

医学科と保健学科の学生約200名と教職員が発表に熱心に耳を傾け、発表者に対して大きな拍手を送りました。最後に発表者全員で記念撮影を行い、報告会を終了しました。

【発表者】

テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター：堀口 航（医学科4年）

ハノーバー医科大学：野村 芽生（医学科5年）

ソウル国立大学：庄野 千恵（医学科6年）、岩井 恵太（医学科6年）

スウェディッシュ病院、セントポール病院：十川和樹（医学科6年）

サンパウロ大学：小林 陽花（医学科5年）、玉山 美都（医学科5年）



赤池医学部長（左から4人目）との記念撮影



赤池医学部長の挨拶



会場からの質問に答える発表者



発表の様子